

双方向型月刊キュレーションメルマガ
“コロナ禍×イノベーション×地方創生”
2021年3月1日 #12

編集発行人: Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典
発行元: Japa 日本専門家活動協会 <http://www.japa.fellowlink.jp/>

INDEX

1. コラム「論点提起」: 「実証」から「導入」への脱皮や如何
2. キュレーション「関連情報&Topics」: コロナ禍×イノベーション×地方創生
3. 紹介「海外に学ぶ」: エストニアにみる電子行政サービスの先駆けとスマートシティへ
(Japa 理事 小畑さいち: 青山学院大学元客員教授)
4. 寄稿: みんなでつくるオンラインテレビ局を、みんなで作っています!!
(NPO 東京いのちのポータルサイト副理事長、(俳句)ARCセッション主宰・藤村望洋)
5. 稽古照今・寄稿: 童謡爺さんのどうよう語り 第七話・第八話 (作詞・作曲家 高橋育郎)
6. 解説「関連データ・用語・仕組み」: カーボンニュートラルとは
7. Blog 仕組みの群像: 新型コロナウイルス対策関連アプリ/システム開発の仕組みの不具合
8. 読者の声
9. つぶやき(編集後記に代えて)

注: 担当執筆者名の記載のない項目は、編集発行人(芝原 靖典)による。

※ 本メルマガは、双方向型の意見交換・交流等をめざしています。メルマガの各コーナーの内容に関する読者のご意見等、執筆者・寄稿者との交流希望等をお寄せください。

第7回 Japa フォーラム [オンライン開催]のご案内

- テーマ: コロナ禍の実態と影響そして今後に向けて
- 開催日時: 2021年3月17日(水) 15:00~17:00 <14:45 アクセス開始>
- 詳細及び参加申込: Japa 日本専門家活動協会の HP <https://www.japa.fellowlink.jp/> の「参加申込」より、事前登録をお願い致します。
- 参加 URL 等については、参加申込に記載のメールアドレス宛にお知らせします。
- 定員: 30名
- 参加費: 無料

1. コラム「論点提起」: 「実証」から「導入」への脱皮や如何

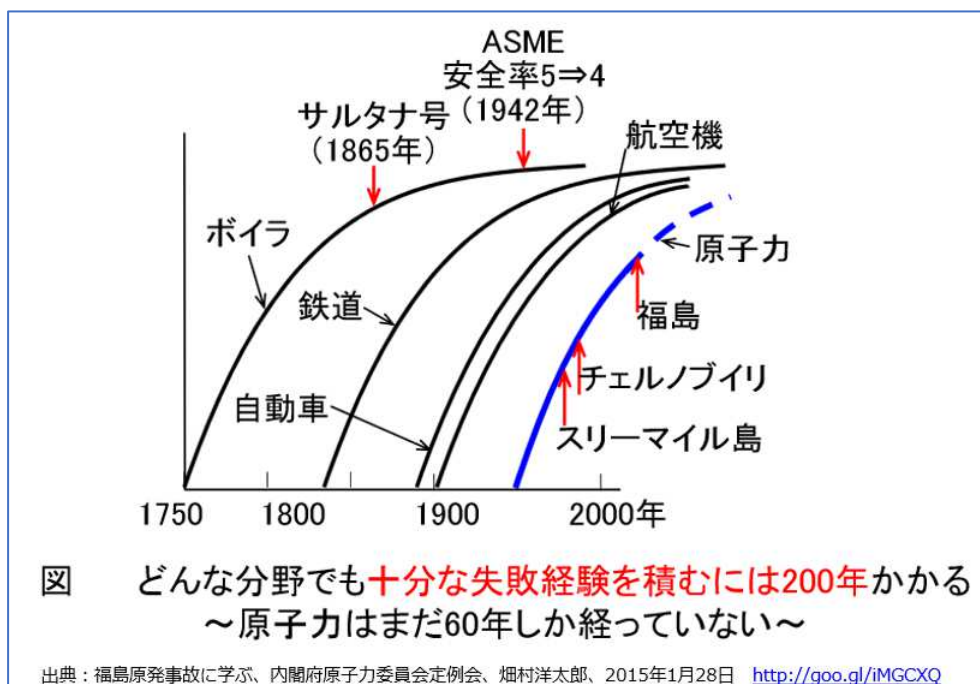
日本においては、新しい仕組みや技術・システム等の開発・導入にあたり、常に「実証(実験)」「特区」等の云う段階が入る。そして、その段階の期間が長く、「導入」へなかなか移行できない。

例えば、ITS(Intelligent Transport Systems 高度道路交通システム)に関していえば、1996年に「ITS推進に関する全体構想」が5省庁(当時。現4省庁)合意のもとに策定され、3年後の1999年には、いまや当たり前になっているETCが導入された。2020年12月現在、ETC搭載率は93%※に達している。(出典:ETCの利用状況 国土交通省 <https://bit.ly/3aYiKvF>)

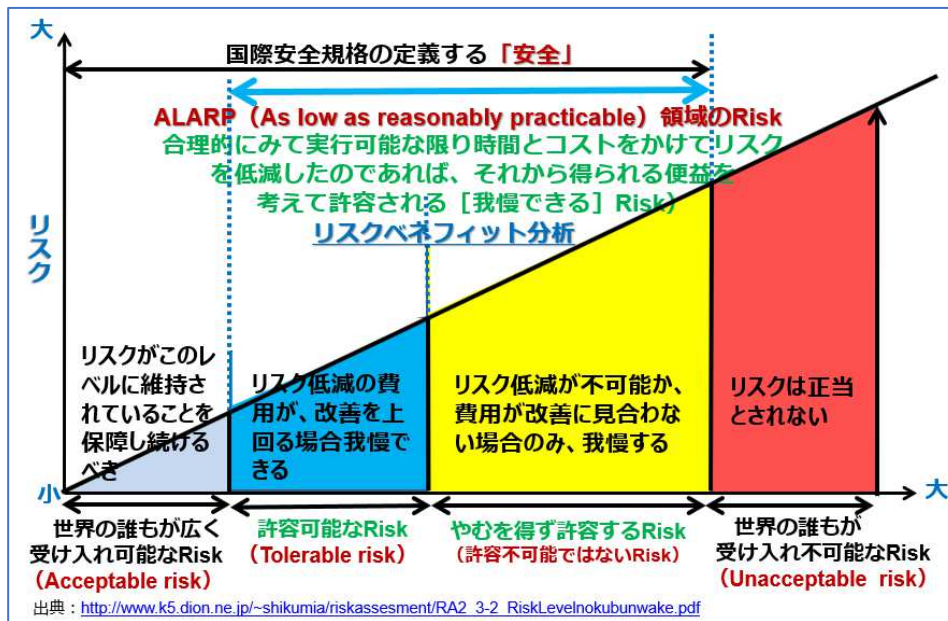
しかし、その頃から既に開発・実証実験されていた追従走行、自動運転等は未だに「実証実験」の段階にある。EV化の動きとも相まって自動運転システムの「導入」が急がれるのに、なかなか「導入」に至らない。これだけ長期間、実証実験ばかりにつきあわされていたら民間企業も疲れる。海外企業(Google、テスラ等)に世界市場で負ける。そのうちに「アップルも参入」してきて景色を一変させるかもしれない。土俵のルールが大きく変わろうとする流れに取り残される。

出典:ITSの高度化に向けた政府の取組事例 2019年3月 内閣官房 IT 総合戦略室 <https://bit.ly/3soxnOG>
アップルのEV参入「テスラの強力なライバルになる」と投資会社CEOが予想 問題はどこが作るか engadget 日本版 2021年02月15日, 午後06:30 <https://engt.co/3aW7hwo>

社会システム的な仕組み/システムの導入はもちろん慎重であるべきであるが、新技術がある一定の熟度に達するには200年を要するとも云われる。自動車は登場してようやく100年超。導入しながら不具合に対応しながら進化していくしかない。「実証」をいかに短くし、早期に「導入」段階(市場興し)に持っていか、100%安全・完全な仕組み・システムはありえない。



Riskレベルの区分



地上の自動車と相互補完するものとして「ドローン」や「空飛ぶ自動車 eVTOL(垂直離着陸型航空機)」もここに来て急速に脚光を浴び、存在感も増している。特に、地上での輸送困難な森林(里山、深山)エリアや離島において、ドローンは有効である。自然災害時に被災状況を確認する際にも、ヘリコプターよりも機動性がある。平時において、社会インフラの点検等への活用等をしながら習熟し、非常時に転用する事が考えられる。本格的な導入・普及に向けて、「安全」を標榜して規制一辺倒ではなく、社会的に受容可能なリスク環境整備(ルール、保険制度等)をして欲しい。

参考:「空飛ぶクルマ」開発 “移動革命”へベンチャー名乗り相次ぐ ITmedia NEWS 2020年11月05日 07時00分 公開 <https://bit.ly/3su4ZL2>

国交省、ドローンの規制強化を検討 基準値を200g→100gに引き下げ ITmedia NEWS 2020年12月08日 17時12分 公開 <https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2012/08/news130.html>

「特区」については、例えば「国家戦略特区」があり、その一つに「養父市の農業特区」がある。「企業の農地所有の特例」(国家戦略特区制度のもと養父市で認められてきた)を全国に広げるかを巡り、「1月15日、当面は全国展開を先送りし、「21年度中にニーズと問題を全国で調査」して調整・検討、との方針が決定」された。特区の特例は「特段問題が生じなければ全国展開」が原則で、養父市の特区は「さまざまな形で企業との協力モデルが生まれた。耕作放棄地は再生された。地元の若者などの雇用創出にもつながった。」「大成功」だったにもかかわらず、先送りされた。要するに「実証」の更なる延長である。責任を取らない政策の先送り・無作為から脱皮して欲しい。出典:「養父の農業特区は失敗」として、利権勢力に加担する朝日新聞の大誤報 2021年01月21日 14:01 原英史(国家戦略特区ワーキンググループ座長代理) アゴラ <https://bit.ly/389tuph>

新技術の社会システムとしての「導入」には、保険制度の活用やアジャイル型の政策・施策導入があるべきだし、民間企業も目先の見える利益確保や内部留保に終止することなく、もっと積極的にイノベーションに向けて先行投資をして欲しいものだが、そうした脱皮できるか如何。

2. キュレーション「関連情報&Topics」:コロナ禍×イノベーション×地方創生

▼非常事態に対してレジリエントな経済社会の構築に向けて –新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえて– 2021年2月16日 一般社団法人 日本経済団体連合会 <https://bit.ly/3aEzSpV>
経団連が「新型コロナウイルスが社会の脆弱さを浮き彫りにした今こそ、非常事態(パンデミックや大規模自然災害などあらゆる有事)に強く、早期の事態収束・復旧を可能とする社会の体制・仕組みづくり、すなわち「レジリエントな経済社会」の構築 が求められている。」との認識に基づき、「あらゆる非常事態に対応するための方策を提起」した提言である。まさに、経団連の会員企業が率先して実践して欲しい内容である。「Ⅱ 政府・地方自治体における非常事態への体制整備」も、「Ⅲ レジリエントな社会システムの構築に向けた社会の変革」についても提言されているが、そこに向けて、企業がなすべき貢献について言及していないのが残念である。非常時こそ、社会の重要な構成要員である個(企業、個人等)のレジリエンス力が問われている。

▼実践から学ぶ地方創生と地域金融 山口省蔵 (株)金融経営研究所 商工金融 2021.2
https://www.shokosoken.or.jp/shokokinyuu/2021/02/2021_02_3.pdf

著者は、地域活性学会金融部会の副会長(元日銀)を努めており、「これまでの地方創生の取り組みにおいて、地域金融機関の存在感は総じて薄かった。こうした中、近年、地域金融機関がリーダーシップを発揮する形での地方創生のプロジェクトがみられ始めている」として、「地方創生プロジェクト事例の一部を紹介するとともに、そこで活躍する地域金融機関に共通した特徴等について説明」した論文である。確かに、地域金融機関、特に信金・信組は地域の資金需要に依存する業態であり、地域創生 Project を興すことが自らの存続に不可避と思われる。「信用金庫や信用組合のような相互扶助がベースとなっている協同組織の方が、目先の収益に捉われず、『地方創生』と親和性が高い戦略を取りやすいと感じている。」とのこと。地域に根ざした Project の掘り起こしは、地方創生の肝であるが、その最大の壁が資金調達である。地方金融機関には、Project ファイナンス等、従来の概念、枠組みを超えて、自ら地方発リバース・イノベーションのエンジン役として大いに期待したい。

▼農協による農福連携の展開―「農作業請負の仲介」と「雇用」を行う事例に着目して― 『農林金融』 2021年02月号第74巻第2号通巻900号 農林中金総合研究所 <https://bit.ly/2McnKTH>
農福連携とは、「農業サイドと福祉サイドが連携して農業分野で障害者の働く場をつくらうとする取り組み」であり、本稿は、「農福連携に取り組む4つの農協を取り上げ、農協が農福連携に取り組む際に阻害要因となる農業側の『障害者とともに働くことに対する不安』を軽減するための方法について検討を行った」レポートであり、その実情が解る。確かに、農協自体が農福連携事業を行うのもいいが、農協以外にも農福連携事業を行いたい事業主体は他にも存在するので、そうした事業主体と農家との仲介にも注力するのも一つの道ではなかろうか。農業には、生産機能以外にもセラピー機能を始めとする多様な機能があり、介護事業とも馴染む。若者を呼び込むコミュニケーション機能もある。一方で、遊休農地、荒廃農地、耕作放棄地の拡大が止まらない。農協の直販所も道の駅に凌駕されている。改めて、農協という協同組合の設立の原点に立ち、現代の時代にあった農協に再生し、地方創生のキープレーヤーの一つとして頑張ってもらいたい。

▼地域公共交通における MaaS 基盤整備 No.66(2021年2月号) 酒田知子 NTT データ経営研究所 <https://www.nttdata-strategy.com/knowledge/infuture/66/report05.html>

市役所で地域公共交通の責任者を経験している著者によるバス運行情報などのデータ化に焦点をおいた地域 MaaS(Mobility as a Service)の紹介である。「MaaS で大切なポイントは、利用者にとって使いやすい交通のあり方を定義することであり、必ずしも莫大な投資を伴う新技術導入とセットである必要はない」との認識であるが、紹介事例をみる限り、まだ、供給者側の論理・事情が先行している感じがする。利用者が使いやすいモビリティサービスとしての仕組みを交通事業者、システム/通信会社等は考えて欲しい。さらに言えば、地方の多くは、バス以下タクシー以上の新たなモビリティサービスを必要としている。MaaS 整備はそれを実現するきっかけとなる。

▼先端技術研究で日本が世界に「落后」した深刻な理由 黒川 清(政策研究大学院大学名誉教授) DIAMOND online 2021.2.15 4:55 <https://diamond.jp/articles/-/262647>

本年1月20日に、科学技術・イノベーション基本計画(6期)が決定され、研究開発費の投資目標が30兆円とされたことを受けて、「日本の研究現場の停滞の原因は研究費の問題だけではなく、むしろ研究現場の組織の在り方や人材育成の取り組みが旧時代のままだということが大きい。これを改革しない限り日本の科学研究の立て直しは難しい。」との問題提起である。確かに、ポスドクから若手研究者としての自立したステップアップの仕組みづくりが必要であるが、研究者の活躍できる場は、大学等のアカデミズムの世界だけではなく、民間企業にもある。しかし、日本企業の研究開発投資は、欧米企業と比して極めて少ない。今回のコロナワクチンの開発状況にもそのことが象徴的に表出している。色々考えさせられる。

▼中国の「智能化戦争」への野望 日本は現実を直視せよ 世界で加速する「AIの軍事利用」 八塚正晃(防衛省防衛研究所地域研究部中国研究室研究員)2021年2月2日 WEDGE Infinity <https://wedge.ismedia.jp/articles/-/21989?layout=b>

本レポートは、「米中対立の下、今後の日本の安全保障を見据えるにあたり、AIの軍事利用を巡る動きと影響を考慮しないわけにはいかない」との認識の下、中国人民解放軍の「智能化戦争」「軍民融合発展戦略」を紹介している。「智能化戦争」とは、「モノのインターネット(IoT)システムに基づき、智能化した武器装備とそれに対応した作戦方法を利用して、陸・海・空・宇宙・電磁・サイバーおよび認知領域で展開する一体化戦争」。そして、「軍民融合発展戦略」とは、「より広範な民間のイノベーションを国防産業に取り込むこと」とのこと。すでに、「偵察用無人機の防空識別圏内での飛行に対しては、航空自衛隊が有人によるスクランブル発進をかけており、いわば「有人対無人」の遭遇という非対称な状況が現実に生起している。」とのこと。歴史的に見ると、軍事技術が戦争の帰趨を決め、さらには先進の軍事技術が民生技術に転用され、その後の社会の変革をもたらしてきたが、どうも、昨今は先端の民生技術が軍事転用されている。しかも、AI等の先端技術の得性として、比較優位性は寡占的になるというリスクを内在している。外交・防衛的努力は当然として、先端技術の立ち遅れリスクについて、日本はまさに「現実を直視」する必要があるとみられる。

[関連情報] 【アメリカ】第5次アーミテージ・ナイ報告書 海外立法情報課 外国の立法 No.286-2(2021.2) 国立国会図書館 調査及び立法考査局 <https://bit.ly/2ZCNXxV>
SF プロトタイプング -国家戦略構築への一提言- Defense and Security Equipment International エグゼクティブメンバー 長島 純 <https://bit.ly/3siPGEN>

3. 紹介「海外に学ぶ」： エストニアにみる電子行政サービスの先駆けとスマートシティへ (Japa 理事 小畑きいち:青山学院大学元客員教授)

エストニアの電子行政への歩み

バルト3国のひとつである人口約130万人の小国エストニア共和国は、1991年にソビエト連邦(現ロシア)より独立を果たした。国の礎は教育である。天然資源がないエストニアは、国づくりの基本を電子化に求めた。その取り組み手段として、社会基盤としてのインターネットに目を付けた。インターネットの即時性に結び付け、教育レベルの質の向上を目指し、その立ち上げのために“E-Education”プロジェクトを構想した。

構想では、教師、生徒、さらに親までも交信でき、必要時に生徒の学習状況把握ができ、さらに生徒自身は学習成果を知ることができ、同時に授業内容やワークショップ支援も得られ、教育効果を高められる。また、教師は、生徒の学習管理や評価など必要時に交信ができ、生徒の学習分析に、よりきめ細かい指導ができることで、こどもの学習進捗度に応じた指導も可能である。教育の電子化はより教育の質レベルを向上させると考えた。さらに国民の情報リテラシーを高めることに大きく寄与した。

エストニアは独立当初、ソビエト流官僚主義がまん延し、発展から取り残された遅れた後進国であった。まず、停滞状態から早く離脱し国の再生を図るために、「ITによる強い技術志向」という構想のもとに経済の活性化を第一とした国家方針を定めた。

また、2006年には、IT分野の権威であるイルヴェス(Toomas Hendrik Ilves)大統領の就任により、「IT立国」をスローガンに政府・社会のIT化推進とする国家像を描き推進した。そして大胆な計画実施により、効率的な電子行政ネットワークの構築を全国に進展させた。

しかし、2007年、首都タリンに設置されていた「第二次世界大戦でのソビエト勝利の象徴」とされる「ソビエト兵士の記念碑」の取り扱いを巡ってロシア系住民の暴動が起き、ロシア側から強い反駁と批判に因り、ロシアとの間に対立・軋轢が起き、直後にロシアから多数のサイバー攻撃が数週間において執拗に行われた。その結果、エストニアの行政機関、金融機関、ネットワーク網などが麻痺し大混乱した。このようなサイバー攻撃に対する危機からネットワーク脆弱対策を最優先課題として取り上げ、最新技術による防御システム強化構築を進めた。

次いで2008年に、リーマンショックによる世界同時不況によって落ち込んだ国内経済建て直しを構造基盤の変革時と捉え、一層の電子化を徹底することにより、生産性を高め、電子国家としての地歩を固めた。その結果、エストニア行政サービスの99%が電子化され、効率的なワンストップ的行政態勢を確立した。

このように、エストニアは行政サービスを主軸に約30年間にわたり困難を乗り越えながら電子化を強力に推進してきた。



エストニア・E-ガバメント HP



情報教育「ビーバーチャレンジ」HP

エストニアにおける電子(デジタル)化の主な歩み

年	内容
1996年～1999年	Tiger Leap(トラの飛躍)基金を創設。学校へのコンピュータ導入やインフラ整備を開始し、すべての学校でインターネット接続を推進
1997年	国家戦略として「e-Governance」の推進を決定
1998年	「エストニア情報政策の原則」を議会で採択
2000年	電子納税システムなどを構築
2001年	情報基盤技術として「異分野横断のデータベース連携情報技術」である「X-Road」の導入を進めた
2001年～2002年	成人対象のIT教育 look@world プロジェクトを開始
2002年	国会で「パブリック・インフォメーション法」制定。公共データはすべてウェブ掲載の義務付け
2003年	無料通話コミュニケーションソフトウェア「Skype」開発リリース
2004年	Vilnius 大学が中心となり「ビーバーチャレンジ」教育プログラム開始
2005年	インターネットによる電子選挙投票の開始
2007年	ロシアからの大規模なサイバー攻撃で情報基盤が麻痺する状態に陥った。NATO のサイバー専門家と協働で対策を行った。サイバー攻撃の対応策として、情報を一極化させないことと、X-Road とブロックチェーン技術の組み合わせ構築でセキュリティ強化を行った
2008年	NATO と協働でサイバー防衛政策のために、タリンに NATO サイバー防衛センターを設置
2014年	e-Residency プログラム*(外国人に電子国民扱い、外国人のビジネス活動に門戸を開放する登録制度)を開始。経済振興策の一環のひとつ。その成果として、エストニアでの起業が急増し、多数の IT 関連起業家の移入が促進された。(*e-Residency プログラムでエストニアに実際に住むことはできない)

スマートシティへ

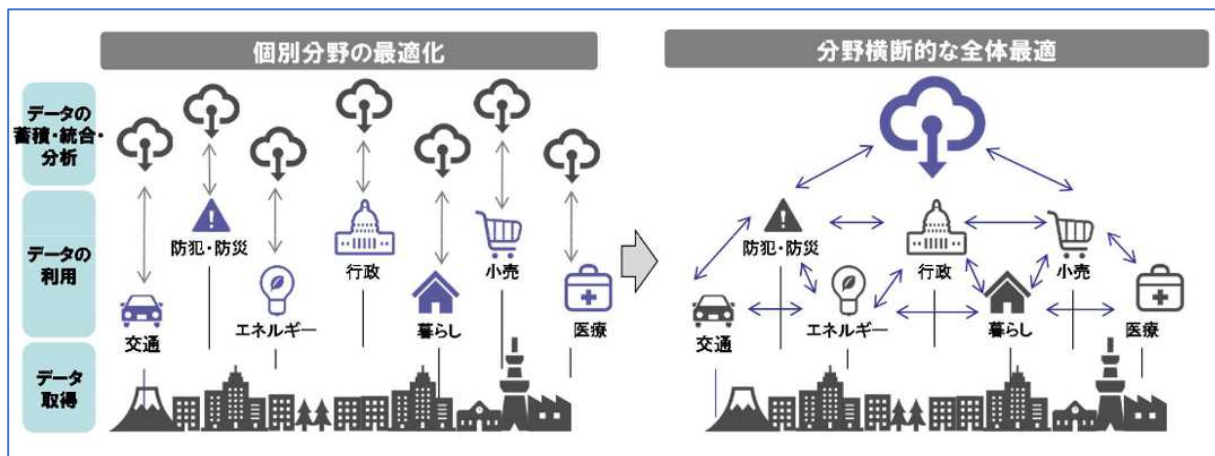
スマートと冠する分野としては、スマートグリッドやスマート・モビリティなどが高まった頃、2007年に米国のコンサルタント会社「ブーズ・アレン・ハミルトン」が老朽化した社会インフラ改修や進展する都市化への対応のために巨額投資が必須であると報じた。

これにより、都市社会構築に対して、IT関係、コンサルタントなどがビジネス機会ありとして、都市課題に対してこれまでのように個別対処するのではなく、複合分野間連動により全体最適化することでスマート・ネットワーク化構想し、都市の「エネルギー」「交通」「防犯・防災」「行政」「暮らし」「教育」「医療・健康」「環境」などの複数分野に対してIoTを活用し、より社会最適化を目指す「スマートシティ」が提唱されるようになった。

その核となるのが、データベースを共有連携し複合分野間連動により、各分野の社会課題に対して効果的に対応する情報構造基盤を都市オペレーティングシステムとされている。

エストニアでは、重要な技術基盤としてデータ交換やデータレイヤーなどの連携により異なるシステム分野やデータの完全、機密、相互運用などの基本技術を提供する“X-Road”を都市オペレーティングシステムとしている。

個別分野の最適化から分野横断的な全体最適へ



出典:スマートシティの実現に向けて【中間報告】平成30年8月 国土交通省都市局 <https://bit.ly/203svPW>

参考

- <https://www.bebras.org/>
- <https://e-estonia.com/>
- エストニアの国家IT戦略と電子政府 砂田 薫 情報システム学会 2014年
- <https://x-road.global/>
- Townsend, A. Smart Cities: Big Data, Civic Hackers, and the Quest for a New Utopia. W. W. Norton & Company. 2013.

4. 寄稿：みんなでつくるオンラインテレビ局を、みんなで作っています！！

(NPO 東京いのちのポータルサイト副理事長、(俳句) ARCセッション主宰・藤村望洋)

「みらくル TV」。みら(ひら仮名)クル(カタ仮名)。未来がやってくる TV とは？

三つの仕組みが連携した日本初の双方向オンラインテレビ局が、2020年4月、コロナ禍で放送を開始しました。(1)ZOOM テレビ会議システムで、(2)同時に YouTube で、全国、世界に放送しています。(3)WEB サイトで、番組表、報道記録などを公表。特に、番組のアーカイブ(配信済み動画)を見ることができて、好評です。

新型コロナ禍を収束させ、首都地震や超高齢社会など様々な課題を克服する一助とするため、つながりと担い手をさらに広げたいという思いで「みらくルTV」を開局しました。復興と防災、障がい福祉、囲碁、音楽、俳句など多彩な分野の方々が緩やかに連携し、出演者やスタッフとしてこのテレビ局を支えています。

立ち上げには NPO 法人東京いのちのポータルサイトが中心的な役割をつとめましたので、「災害からの復興と防災」が主要テーマの一つです。特に、コロナ禍における防災対策や避難所運営、障がい者などの災害弱者の問題を緊急テーマとして、中林一樹先生をはじめとする様々な専門家によって防災番組が作られています。

防災と言えば、耐震補強や家具の固定、水や食料品の備蓄、避難訓練や炊き出し、避難所運営などが主力でしたが、首都直下型や南海トラフの巨大地震に備えては、事前に如何に復興計画が立てられるか、計画に基づき事前にどれだけ準備できるかが重要な課題として浮かび上がっております。

2023年は関東大震災から100年目。この節目までに何ができるかをみんなで考える「首都防災ウィーク」は毎年9月1日前後に開催されて昨年が8回目。関東大震災で何万もの人が焼死した墨田区横網町公園の東京都慰霊堂が会場ですが、昨年9月は、東京都慰霊堂と「みらくル TV」が共同会場となり、6日間にわたって特別番組が放送されました。すべての放送は、アーカイブでご覧になれます。

「みらくルTV」の代表者木谷正道氏は、囲碁の木谷名人の息子さんで、その関係から日本棋院とも連携した様々な囲碁番組があります。中でも高次脳機能障害の患者さんとの番組では、リハビリに囲碁がいいとされています。視覚障害の小学6年生岩崎晴都君が信田成仁六段の指導でプロ棋士を目指す実況中継は毎週放送されています。晴都君が視覚障がい者として初めて日本棋院の院生(プロ棋士の卵)に採用されるというのが最新の話題です。

音楽番組では、全盲のヴァイオリン奏者・白井崇陽氏、全盲の和太鼓奏・片岡亮太氏 聴覚障害の手話ダンス・竹 DS さん、木谷正道氏がヴォーカルを担当する心の唄バンドなども人気です。中で

も全盲のシンガーソングライター&ピアニストの大石亜矢子さんの澄んだ歌声の優しさは素敵ですが、即興の作詞作曲による弾き語りは、天才としか思えない素晴らしさです。

障がい者は移動しなくても自宅から出演できるのがリモートの「みらくルTV」のいいところです。ZOOMでのリモート合奏は難しいというのが定説ですが、最近では、SyncRoomという優れ技で、見事な合奏を披露しています。昨年9月の「首都防災ウィーク」特別番組では、「世界みらくル音楽祭」を開催。東京都慰霊堂を本会場に、台湾、韓国とも結んでリモート音楽祭を世界に向けて放送しました。その後も、ZOOMによる音響システムや配信技術の講習番組も放送して、スキルアップを図っています。

今、最もお勧めは、「今、障害福祉を考える」。浅野史郎氏(元宮城県知事)コーディネートのインタビュー番組です。オンラインですから全国の地元で活動する福祉の凄腕たちが次々と登場します。登場人物はまさに驚愕の凄腕ぶりで、一般のテレビ局を含めてこんな面白い番組は見たことがないという人もいるくらいです。「1本2時間のアーカイブにはまってしまって何本も！今週は何も仕事ができない！」という人もいました。

番組「今、障害福祉を考える」の一コマ



筆者は俳句の番組を担当しています。「しりとり俳句」やクイズ形式の「穴あき俳句」で全国どこからでも誰でも参加できる「俳句入門」、現代のリモートによる新しい形を模索する「連句入門」で遊んでいます。「首都防災ウィーク」では「季語と防災」を取り上げました。地震の「穴あき俳句」の一つ。「阿波淡路活断層へ冬〇〇〇」(相原左義長)。考えてみてください。是非一度見に来てください。一緒に楽しみましょう。

「みらくルTV」ご参加は、<https://us02web.zoom.us/j/3782787584> パスコード 39 で。詳細は、「みらくルTV」を検索！どなたでも気楽なご参加をお待ちいたしております。

(穴あき俳句の答は「鯨」。鯨は夏の季語ですが、阪神淡路大震災なので「冬鯨」でした)。

5. 稽古照今・寄稿:童謡爺さんのどうよう語り(第七話・第八話) 作詞・作曲家 高橋育郎

(第七話)

「赤い鳥」の社会に及ぼした影響はすごいものだったんだ。生みの親の鈴木三重吉も、ここまでとは予想しなかったろうね。今流にいうと、まさに想定外だったわけだ。なかでも最も刺激を受けて、よし、それでは俺も、と立ち上がったのが野口雨情だった。

「赤い鳥」が出た翌年に「金の船」という童謡月刊誌が出て、ここに詩を寄せた。そして、その翌年、藤森秀夫が「童話」という雑誌を出し、さらに「コドモノクニ」というのが出たんだが、雨情はこれらにも寄稿した。これから以降、言い方はよくないが、雨後のたけのこの如くに全国津々浦々に、童謡は同人誌などのかたちで広まって行った。特に、中産階級にもてはやされたのだった。そうしたところからみても、「赤い鳥」は童謡運動の魁と、三重吉が自ら言ったことが当たったんだね。

「赤い鳥」は、童謡詩の投稿誌なんだ。白秋と八十は作ることの一方で選者になった。そこには熱心な応募者が多く、選者はうれしい悲鳴を上げた。中でも特に熱心で、傑出したのが、与田準一、巽 聖歌、佐藤義美の三人だった。三人は白秋の弟子とも言われるようになったんだ。また、平成になって、にわかに脚光を浴びてきた金子みすずは、西条八十がその才能を見出したのだ。ところで、不思議といおうか面白いのは、三重吉自身は童謡は作っていないということだ。昭和になって活躍をはじめたサトウ・ハチロー(日本童謡協会の創始者)は白秋の心酔者で、多くを学んだという。

大正のこの時代は、第一次世界大戦が終わって、自由主義思想が世界的に広がり、日本も例外ではなかった。というより世界に先駆け積極的に摂取して、文化に反映させて行ったんだね。日本人の勤勉さ、優秀さが発露されていると思うのだが、文学や芸術活動が顕著になって、この時代を人は大正ロマンと呼んだ。すばらしい精神文化の誕生であり、爛熟ぶりを見せたんだね。その象徴が竹久夢二であり、彼がつむぎ出した童画を含む絵画や、詩、さまざまなデザインは魅惑的であり、多くのファンを持って、いまなお輝きを放っている。「宵待草」はよく知られた代表だね。文学では志賀直哉、武者小路実篤、有島武郎などが中心で立ち上げた白樺派が、明治の風潮を一新した。

演劇も、川上音二郎の流れを受けて、島村抱月が松井須磨子と組んで、芸術座による新劇運動を開始した。ここでは演目に「復活」が上演されて、ロングランしたが、主題歌である劇中歌「カチューシャの唄」がよく歌われた。作曲は中山晋平だ。実に画期的で、流行小唄のレーベルが貼られて流行歌第1号のレコードになったんだ。その



後の流行歌のはしりだね。一方で、作曲で登場した中山晋平が、そのあと野口雨情らと組んで多くの名作童謡を生み出すんだ。後に大正期のもは大正童謡、あるいは芸術童謡と呼んでいるんだ。このあたりの活力は何とも目を見張るものがある、実に魅力的な時代だったね。いくら語っても語り尽くせない思いがするんだ。

そうした時代背景から「赤い鳥」は生まれたんだ。ここで思うことは新しいものが生まれるには、いきなり突拍子もなく生まれるということは、まずはなくて、時代の環境といった下地が胎盤になって、生まれるんだね。童謡誕生にも、そういった意味の環境が気運を高めていったんだね。

遡ってみると、明治になるが、17年に「言文一致論」というのを物集高見(もずめたかみ)という国文学者が唱導した。これに同調者が現れ、25年になって「小学唱歌」のなかに言文一致で作られたものが出てきたのだ。言文一致とは、要するに文語体で書かれていたものを、やさしい日常用語で書こうというもので、文語体に対して口語体と呼ぶものなのだ。ここに登場した作曲家が田村寅蔵であり、納所弁次郎だった。二人は主に巖谷小波、石原和三郎と組んで「ももたろう」「きんたろう」「はなさかじい」「うさぎとかめ」「一寸法師」など今でも歌われているんだが、子供がすぐに歌える、いわばお伽話唱歌を作ったんだ。その後、34年になって、瀧廉太郎が登場した。でも23歳という早世が惜しまれてならない。「荒城の月」は代表作だね。東くめというまだはじまって間もない幼稚園の保母さんの詞と組んで、園児の歌える幼年唱歌を作ったんだ。「早く来いこいお正月」が知られているね。 (つづく)

- ※ 第一次世界大戦 1914(大3)~1918(大7)オーストリア皇太子が、ボスニアにてセルビアの青年に暗殺された。これがきっかけになった。
ドイツがヨーロッパを巻き込み、世界に波及。日本はイギリスに荷担してチンタオで、ドイツと戦い勝利した。ドイツの捕虜を日本の収容所にかくまった。収容所ではオーケストラなどドイツの音楽や、その他文化を学んだ。(習志野市の場合)
一方、四国坂東の収容所では、ベートーヴェンの第九が歌われ、後世に伝わり有名になった。
- ※ 大正ロマンの象徴的な事。竹久夢二 平塚らいてふ「青鞥」。志賀直哉などの「白樺派」。宝塚歌劇 東京駅 銀座カフェ・プランタン 芸術座 有楽座 吉野作造 浅草オペラ 交通信号 カルピス 日活女優酒井米子 海水浴が時代の象徴。
- ※ 「金の船」は佐藤佐次郎が編集者。2年ほどで「金の星」と名を変えた。
- ※ 「言文一致」坪内逍遙「小説神髓」(近代文学最初の組織的文学論)二葉亭四迷「浮雲」山田美妙「夏木立」。三遊亭円朝の落語講談。
- ※ 藤森秀夫は「めえめえ子山羊」が知られている。
- ※ 金子みすゞ 下関を終生の住家とした。大正12年に雨情が「金の星」に載せたのが最初。続いて八十が「童話」に「お魚」の詩を載せた。みすゞは八十のファンで喜んだ。そのあと八十はみすゞに下関で逢う。そして、「幻の童謡詩人」みすゞを応援、世に広めた。
更に、平成になって矢崎節夫(童謡協会会員)が著作によって、広く知らしめた。
実は「幻の童謡詩人」に大木まどかがいる。詩集「お菓子の塔」があって、爺はいくつか作曲した。その一つが童謡協会の季刊誌に載った。協会に入会できたのは、その実績もあった。藤田圭雄の「童謡詩」に掲載されている。

(第八話)

三重吉という人は不思議な人で、自分では童謡や童話は作らなかったんだね。ほかの作家に作らせて、自分は集まった原稿を細かくチェックしていたんだ。たとえばびっくりしたんだが、あの芥川龍之介の「蜘蛛の糸」という名作童話があるね。あれなど、実は三重吉が、朱でかなり手を入れているんだね。龍之介といえども三重吉にはさからえなかったし、たしかに三重吉が手を加えたもののほうが、俄然よくなっていて、頷けるんだ。そういう才能があったんだね。

話がそれだが、ここでいわんとしたことは、三重吉が「赤い鳥」をおもいだした以前にそうした空気といおうか童謡が現れていたんだ。

明治三十八年には夏目漱石、岩野泡鳴、野口雨情、三十九年に薄田泣菫、巖谷小波、四十年は田山花袋、竹久夢二、四十四年は北原白秋、大正3年、小川未明といった文人が、童話を書いているんだ。それらの作品は「少年」「子供之友」「良友」「少女号」「少女世界」といった雑誌に載せられたんだ。

こういう文人たちは、ほとんどが三重吉の呼びかけに応じているんだね。泉鏡花もいたし、あと忘れてならないのが、三木露風が存在だ。

露風はすでに「廃園」などの詩集で知られ、一方、白秋の「思い出」や「邪宗門」などが高く評価されて、二人は並び称されていたんだ。「白露時代」といわれたほどだ。

それで三重吉はどちらを選者に据えるか迷ったほどだ。手紙を書いて打診してみたり、でも結局は、白秋の方が、多作家であり、反応がよかったんだね。そうした器用さをもって、白秋を選んだのだ。勿論、決して作家としての優劣を決めたわけではないのだがね。

そうした露風はどうしたかというと、「こども雑誌」と言う雑誌の方へ肩入れをしたんだ。露風といえば、有名なのは「赤蜻蛉」だね。あれは大正10年に「樗の実」という同人誌に発表されたものなんだ。曲は山田耕筰だね。



このように三重吉は、俄かに童謡を生み出したわけではなく、それまでに下地は徐々に出来つつあったということなんだ。地盤とでもいうのかな。地盤の上に立ったとはいっても、やはり画期的だったんだね。そして童謡の世界を切り拓いた原動力となったわけだから、やはり凄いもんだ。

ここで活躍の場を与えられた白秋の存在は大きかった。彼は芸術童謡ということを強調したんだね。童謡は芸術だから、作品は芸術性がなくては行けないと主張を続け、白秋を中心に芸術童謡運動は高まり広まって行ったんだ。だからその影響で大正時代の童謡を芸術童謡と呼んで、昭和の童謡と区別しているんだ。



昭和になると、ラジオ放送が開始されて、子供たちの耳に入りやすくなったし、子供向けの雑誌もふえてくる。それにつれて新しい童謡のレコード化も盛んになってきた。そうすると雑誌やレコードを売らなくなるという商業的性格が正面にできるようになり、芸術性よりも子供が喜んで買ってくれるものの方に重心が傾いていく傾向が現れてきたんだ。そうした傾向は、もう白秋の力では抑えきれない状況になってきたんだね。

一方、三重吉は、昭和になって日本騎道少年団を組織するのだが、軍国主義の時流に乗って発展していく半面、「赤い鳥」は衰退の一途をたどり、この自由主義的な児童芸術運動は日中戦争の始まる前年、昭和11年に、彼の死と共に終わりを告げたんだ。爺が生まれた翌年、2・26事件が勃発した年だった。

昭和六年に満州事変は勃発し、戦争の槌音が聞こえていたのだ。

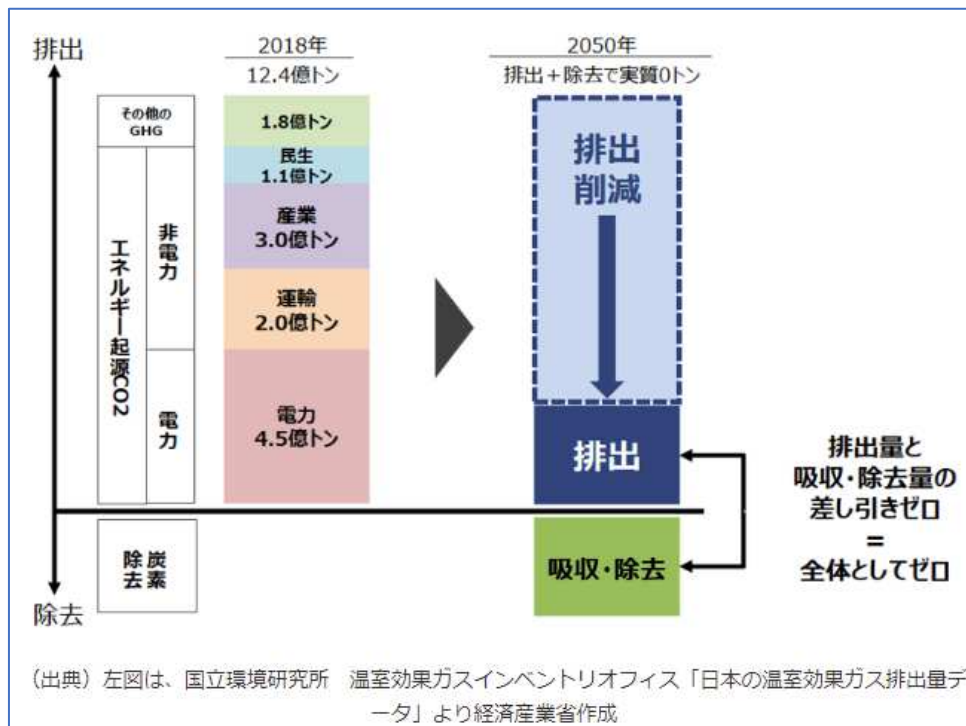
※ 「からたちの花」山田耕筰作曲。爺は千葉市の幕張に住んでいるが、実は耕筰は小学生低学年に1年あまりここで暮らした。3丁目公園に記念碑が建っていて、爺はそれをカメラに収め、童謡協会誌に載せた。近くの幕張小学校に通ったのだが、その道筋にからたちがあったそうで、その思い出を後年、白秋に話したところ共通の思い出があったことから「からたちの花」が生まれたといわれている。

(続く)

6. 解説「関連データ・用語・仕組み」: カーボンニュートラルとは

「カーボンニュートラル(carbon neutral):炭素中立」とは、ライフサイクル全体で見たときに、二酸化炭素(CO2)の排出量と吸収量とがプラスマイナスゼロの状態になることを指す。環境省によると「削減が困難な部分の排出量について、他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等を購入すること又は他の場所で排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動を実施すること等により、その排出量の全部を埋め合わせた状態」を指す。

そして、2020年10月の菅総理の所信表明演説において、「我が国は、2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち **2050年カーボンニュートラル**、脱炭素社会の実現を目指すことを、ここに宣言いたします」と日本の目標が示された。日本が目指す「カーボンニュートラル」は、CO2だけに限らず、メタン、N2O(一酸化二窒素)、フロンガスを含む「温室効果ガス」を対象にすると述べている。



出典:「カーボンニュートラル」って何ですか？(前編)～いつ、誰が実現するの？ 2021-02-16 資源エネルギー庁 https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/carbon_neutral_01.html

関連資料:2021年環境行政の主な課題について -2050年カーボンニュートラルへの取組と新たな循環法の制定- 参議院事務局企画調整室 2021-2-19 <https://bit.ly/3qBXAc1>

この目標の達成に向けて、象徴的事例として、自動車のEV化が不可避とされているが、それでは「日本ではクルマがつくれなくなる」*との声もある。石炭火力発電、原子力発電、自然エネルギー発電等の抜本的なあり方を含めたタブーのない電源構成の議論が避けられない。地球の気候変動は地球の歴史的スパンでの科学的議論・検証が必要であり、クールな対応が問われている。

出典:日本のカーボンニュートラルを考える 自工会・豊田会長が語った事実 T2021.01.08 UPDATE トヨタイズム <https://toyotatimes.jp/insidetoyota/111.html>

7. Blog 仕組みの群像：新型コロナ対策関連アプリ/システム開発の仕組みの不具合

新型コロナ対策関連アプリ COCOA や、ワクチン接種円滑化システム(略称:V-SYS)といったアプリ/システム開発の不具合が報じられ、改めて、日本の IT 関係の構造的問題(特に、IT 人材)を再認識させられている。何が真の問題か、自らの経験も想起しながら、ブログにしたためた。

▼Blog 仕組みの群像:新型コロナ対策関連アプリ/システム開発の仕組みの不具合
<https://shikumi-gunzo.hatenablog.com/>

8. 読者の声 ※読者の方からの「声」をお待ちしています！

【読者の声 1】 メルマガ、感謝。

2月1日号の「論点提起」で言及されている「エビデンスに基づきー」はまさにその通り。エビデンスがないものを推測すると「お化けがいつ出てくるか」という恐怖になります。ナイトの不確実性論 1921。日本ではまったく話題にならないのが、不思議です。それから、トリアジについても、日本では「命の選別」として、感情論が先にたってます。が、ご指摘通りでして、死生観に基づく、寿命が来たら天に召される。高齢者福祉の社会を見直すべきでしょう。

<http://www.jicl.jp/hitokoto/backnumber/20200810.html>

とにかく、奇跡的に死亡者が少ない日本でのパニック！

教育をはじめ、社会システムがマヒ。⇒自殺者数が増えるという悲劇が起きてます。

(私はコロナは大したことない、といってるわけではありません。エビデンスに基づき、正しく恐れましょう)

(浜地道雄) <https://hamajimichio.hatenablog.com/entry/2021/01/29/125636>

【読者の声 2】 謹啓 2月1日号拝受致しました。

今号は何れも、緊張感なく、寄稿文にすう〜つと入り込めて、良い気持ちで読み入りました。編集子のご努力の賜物と存じ上げます。

とりわけ童謡の勃興期から隆盛期へかかる文面に、大いに意欲横溢の様相が盛られ、老生の人生経験の重なりと、現下、鎌倉野村山に「鎌倉 CANOPUS」PJ を生み出さんと、苦闘中の心境に、勇気と確信を得る編集でした。

己が還暦を迎える頃、生年が、2・26事件の年であったと、迂闊の見本の如き己の無知にハット驚いた事が生々しく思い出されます。改めて爾後の人生を、市民歴 60 年の当地鎌倉に向けようと、(一社)鎌倉観光フォーラムを創立登記致した次第です。

当フォーラムが中心になり、鎌倉野村山(2002 年春、野村総研の寄進地48千坪の緑陰丘陵の地)に、文化・学術・芸術振興の杜、鎌倉 CANOPUS 構想を据え、爾来、木質建造による音楽・美術総合施設に世界の学徒と指導者を招き、此の学び舎から平和の使徒宜しく、羽ばたく地として鎌倉が長きに亘り、平和都市として存続することを、願うものであります。

2月1日号で拝見の童謡トピックに感じましたコトに触れさせて戴きましよう。

当市に、明治初期の東京芸大2期生の納所弁次郎氏の縁者に当たる方が居られます。弁次郎さんは、著名な童謡を幾つも作られています。この時期には、欧米の歌の導入に当たり、日本語歌詞に訳された歌が、真に素敵、情緒あふれ、日本語の持つ心豊かな世界へ人々を誘うに余りあるものを、今も変わらず持つことに、我々も心から感ずるものです。文部省は、当時一流の漢学者諸氏に、また、世に出た若く一流の詩人方に歌詞を依頼されたことが、「日本のうた」がすべての日本人に愛唱される基となったのでしょう。

益々の御誌の発展を祈念申し上げます。 早々頓首

(鎌倉 CANOPUS 一般社団法人鎌倉観光フォーラム 代表理事 山本徳樹)

[読者(寄稿者)の声 3]

大変お世話になります。

早速、私の拙文(2月1日号)を読まれた横浜在住のN先輩からTELを頂きました。恐らく10年間以上もお会いしていませんでしたので、つい懐かしく昔話に話が咲きました。

お陰様で、N氏の横浜市内での現在の活動状況を教えて頂くことが出来ました。

私の拙文をメルマガに掲載頂き、大変懐かしい方からTELを戴け、感謝申し上げます。

(児玉忠則)

9. つばやき(編集後記に代えて)

大坂なおみ選手が全豪オープン女子シングルスで優勝した(2021年2月20日)。準決勝、決勝を久しぶりにテレビ観戦した。とても23歳とは思えない冷静なプレーぶりであった。優勝賞金2.3億円。2020年の年収は約40億円(賞金:340万ドル、スポンサー収入:3400万ドル)で、女子スポーツ選手ランキングNo.1。その額は女子スポーツ史上最高額とのこと。今回の全豪オープンに優勝し、世界ランキングはNo.2に上がったが、実質はNo.1とのこと。人種差別抗議行為も称賛され、そのキャラクターとも相まって、世界が注目している。ますます、スポンサー収入が跳ね上がり、「女レインメーカー」(カネの雨が降る)誕生! とのこと。コロナ禍の中、なんとなく嬉しいのは何故だろう。

参考:女子選手の年収ランキング、大坂なおみが40億円で首位に 2020/08/18 10:30

Forbes JAPAN <https://forbesjapan.com/articles/detail/36508/1/1/1>

【全豪OP制覇】「女レインメーカー」、大坂なおみ 年収80億円の倍増も 2021年02月22日 05時15分 <https://www.tokyo-sports.co.jp/sports/tennis/2792724/>

編集発行人: Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典

問合せ・連絡先: info@japa.fellowlink.co.jp

発行元: Japa 日本専門家活動協会 <http://www.japa.fellowlink.jp/>

Copyright © 2021 Japa 日本専門家活動協会